



【幸いな人・幸いな人生】

今日の聖書本文：詩篇 1 篇 1 節-6 節/暗唱聖句：詩篇 107 編 19 節—20 節

説教者：鄭南哲牧師

シャロム! 愛するみなさん!クリスマスの一週間の間も主の平安で守られましたか。今日は 2014 年最後の送年感謝礼拝として捧げています。まず左右、後ろの方と挨拶をまわしましょう。“祝福の年末年始を迎えて下さい! 良いお年を!”

<詩篇の御言葉は?>

本日は旧約聖書の 19 番目の詩篇の御言葉について一緒に学んで行きたいと思えます。詩篇は“賛美の御言葉”だと言われています。150篇の詩で実は詩篇は5冊に分かれています。一冊目詩篇 1—41篇、第2冊は42—72篇、第3冊73—89篇、第4冊90—106篇、第5冊107—150篇です。

毎冊の最後には神をほめたたえる頌栄で閉じています。“ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。アーメン。アーメン。”(詩篇 41 篇 13 節)なので詩篇は“賛美の御言葉”だと呼ばれています。

詩篇は聖書の中でも一番たくさん読まれ、一番多く賛美で歌われた御言葉です。喜びと感謝の時だけではなく、痛み、苦難、迫害や試練の中でも勇気と希望を与えて下さる御言葉です。詩篇は礼拝の時でも一番よく使われている御言葉でしょう。

我々が今日歌っている聖歌の大部分は 18 世紀イギリス教会で歌われて賛美で構成されていますが、ヨーロッパの改革派教会や伝統的な長老教会、日本でも改革派教会は今も宗教改革者であるカルベンの神学に従って詩篇賛美だけを礼拝に歌っているほど、大事に用いられている聖書が詩篇であります。

<詩篇の内容>

詩篇 150 篇にはいろいろな内容とテーマが含まれていますが、また大きく次の4つの内容で分けられます。一つ目は賛美詩(Praise psalms)です。名前通りに創造主の神を賛美する歌(詩篇 33,47,96,105,146 篇)として聖殿で神をほめたたえる内容です。2 番目は感謝詩(Thanks psalms)として、つまり今まで変わらぬ成して下さった真実な神についての感謝の歌の内容(8,18,66,116)が含まれています。3 番目は嘆息詩(Lament psalms)として、悲しみの歌(10,22,42,44,74,80 篇)が表れています。神の救いと助けを懇願したり、悔しい事を神に訴えたり、罪の告白や赦しを切に望みつつ嘆息する詩篇です。四つ目は帝王詩(Royal psalms)で、名前通りに王の王なる神に、王なる主への讃歌(2,18,20,21,45,72,101,110,132,144 篇)の内容です。王なる神を賛美し、メシヤについての感謝の歌が含まれて射ます。

<詩篇の著者たち>

この詩篇 150 篇は神様がだれを通して記録されたのでしょうか。150 篇の中半分に当たる 73 篇をダビデが記録し、アサフによって記録されたのが 12 篇、ダビデに任命されて聖歌隊を指揮したゲルシヨムの子孫レビ人、コラによって書かれた詩篇が 10 篇です。それ以外にもモーセによる詩篇が 1 篇(90篇)、ソロモンの詩篇が 2 篇(72、127篇)などがあります。

詩篇の中で一番ひさしい詩篇がモーセによって記録された詩篇90篇ですが、その記録された時が紀元前 1400 年前なので、緒今から 3400 年前になります。そして、一番遅く記録された詩篇が 126 篇で、今から約 2500 年前記録されたので、詩篇は約 1 千年ぐらいの相当の期間に渡って記録された神の御言葉であることがわかります。

<詩篇 1 篇は >

この 150 篇の詩篇についてこのぐらいの理解をもって今日の本文に注目したいと思います。今日の本文である詩篇 1 篇は詩篇 150 篇の序曲であり、すべての詩篇の内容とテーマの要約だとも言われている重要な内容であります。人がどうすれば一度の人生を幸いに生きる事ができるか、できないかをよく教えて下さる御言葉であります。今日の詩篇では私たちの人生に二つの道があると言っています。幸いな者の道(1—3節)と悪者の道(4—6 節)、この二つの道のなかどんな道をえらぶかによって私たちの運命は完全に変わるということです。ですから人生の道をただしく選択しなければならないのを強調し、そのかぎを教えて下さる我々にもっとも大切な御言葉であるでしょう。

<幸いな者とその人生の基準 >

ところが、今日の本文は我々が一般的に理解している福とは違う点を見つけます。いわゆる世間で一般的に“福、幸いだ”と思っ
ていることは“この世で物事がうまく行ってる事”だと言われています。消極的には災と難がないことを意味するでしょう。人生の中
で思わぬ災いや困難に当たらず生きる人を“幸いだ”と言います。積極的には世の人たちは5つ“健康、長寿、子どもが多い、財物、
万事好都合である事”持っている人が幸いだとも言われますし、世間(せけん)のすべての宗教行為もみな共通に上のような物質
的な繁栄と現世的(げんせ)な福を話しています。今日今年の最後の礼拝をささげながら、そして 2015 年の新年を迎えながら、
我々の一番の願いであるなら、神様に祝福される人になり、家庭がさらに祝福されるようにではないでしょうか？

しかし、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!今日の本文は我々が考えているのと違った祝福を語って
います。150 篇の詩篇が一番初めて出てくる単語が 1 節の‘幸いな人’(Blessed is the man…:アシュレイ ハイシ:幸いになり、その
人は)とは財産が多くあるとか、この世でうまく行っているような人ではありません。そんな世間的な祝福の概念とは完全に違うと言
う事を語っています。

ここで、‘幸いな人’とは消極的には悪から遠ざかり、積極的には神様の御言葉を守り、従い、その御言葉によって生きる人だと言
います。つまり、神から幸いな者になるために‘神様の御言葉に対する態度’がその基準だと私たちに教えています。神様の御言
葉に対する態度が幸いな道を歩めるか、そうじゃなくのかを完全に分ける基準になるということです。

具体的に今日の本文では、くまず、幸いな人とは区別された生き方をすると教えて下さっています。

始めに、早速幸いな人生とは 1 節で‘悪者のはかりごと’を遠ざかります。 その理由は簡単です。悪口やそのような人の話をよく
聞くと当然、悪い影響を受け、悪い道に歩む可能性が高くなるからです。そういうわけで、幸いな人は聞く事をも注意し控えます。
人々は多くの話をし、我々の耳にはいろんな話が聞こえます。しかし、その様々な話は我々の魂に影響を与えます。人が神様から
離れる過程が三段階で表れていますが、その一段階は間違っただ話を聞くことから始まります。人に一番大切なのは、心の思いで
す。人は心を支配すれば、その人の行動まで支配することができます。大体の人々には心の扉がありません。ですから、どんな声
でもその人に影響を与える事ができます。しかし、信仰の人はそうではありません。心に扉をつけて、聞くべき話と、聞かなくて良い
話を見極めて、区別しなければなりません。我々も自分の心を守れば、どんなに悪い言葉と悪企(わるたくら)みが我々を倒そうと
しても絶対的に安全です。困ったことができたなら、我々の心には信仰の思いも働きますが、不信仰の思いも同時に働きます。その
時、不信仰の思いを抑えるのが信仰です。

1 節の御言葉によると神様の御前で幸いな人は神様の御言葉によって生きていく反面 悪者は何によって生きますか。

自分の浅知恵、日本語でははかりごとで訳されています。自分の計略(けいりやく)に生きる人です。この ‘はかりごと’ に該当する
ヘブル語は ‘アチャート(atsat)’ という単語です。これを英語で訳すと ‘counsel, advice, purpose’ という意味になります。
一言で言うと悪者は自分の頭をたより、計略をたくらむ人間的な理性に従い左右されます。昼も夜も ‘どうすれば物事が自分の願
いどおりになるか、思い通りに動かすことができるか。これらのことばかり考え、回りをコントロールしようとします。

実際みなさん! 神様の御言葉を知らない人たちはすでにこのような生活や考え方になれてこのように生きるのを当然のように考え
ます。しかし今日神様からの御言葉はこのように御言葉より自分のはかりごとによって生きる人を悪者だと厳格(げんかく)に分け
ています。これは単なる信じていない人たちをさすことでしょうか。そうではありません。教会内にも十分その悪者のはかりごとば
かり聞いて、考えて左右されるのに該当される可能性もあります。神様の御言葉によるのではなく、自分の頭だけたよって自分た
ちのはかりごとに従おうとする可能性が私たちにも十分あります。イエスを信じている人々さえも神様の御言葉を優先に聞かなけれ
ば、自分や周りのはかりごとを聞きながら生きようとする悪者の生き方になってしまいがちであると聖書は警告しているのです。

二番目に気をつけなければならないのが、“罪人の道”に入らないことです。

これは思いついた、はかりごとを実際に行動に移すことです。どのようにして罪を犯しますか? 良くない思いが衝動的に行動で移さ
れて罪を犯してしまうのです。ですから、精神異常者じゃないかぎり、何も考えずに罪を犯す場合はありません。人は一度以上は
悪い考えをした上で、それを行動に移します。それを悪魔がしかけます。悪魔は人間の心を刺激して罪を犯すようにと促がす役割
をします。疑いを増し加え、ますます憤りへと働きかけます。我々はこのような衝動に勝つことができれば、罪の道を歩むことはな
いでしょう。ですから、罪を打ち勝つ大切なことは悪者をはかりごととを聞かないようにすることです。

我々が罪の道を歩んでしまう理由は悪魔の惑わしにだまされてしまうからです。悪魔はどうやって我々をだましますか？

これを知っている人は誰もいないとだまします。そして、今回だけ罪を犯して、その次は絶対やらなければいいんじゃないとだまします。そして、おまえはとつてもすばらしい存在なので、今までよく頑張ってきたので、このくらいの罪を犯すことはそんな大した問題にならないとささやきます。しかし、一度、罪の道に入ってしまうと、抜け出せなくなり、自分の力ではどうしようもできなくなります。みなさん！ 覚えましょう。一度、罪の道に入ると、どん底(ぞこ)までいってしまいがちです。そのとき、賢い人はどうしますか？ あらゆる手段と方法を使って、抜け出てこなければなりません。

そして三つ目は‘あざける者の座’に着かないように気をつけなければなりません。

あざける者とは神様を認めない人を言います。神様を認めない時、この世は自分の居場所になってしまいます。我々が座らないべき座はどんな座ですか？それは神様の座です。自分が神様のように、まるで、自分が正しい標準で基準かのように、高慢に考えたり、行動をしてはいけません。これがまさに悪魔が望んでいる座であります。どんな立場でも、職務でもそれはキリストの心で仕える座だけが我々の望むべき座ではないかと思えます。人々はそれぞれ自分の道を歩んでいます。

神様も人生それぞれに祝福の道を歩むことを望んでおられるため、その祝福の道をどうやって人があゆむべきなのか、そのように歩む者が神からのどんな祝福を頂けるかよく教えて下さっているのです。

< 旧約の祝福された良い王たちと悪かった王たちの違う点 >

われわれは以前旧約の申命記を読んで見ると、イスラエルの王たちに良い王として立たせられていてほしい神様の願いをこめた命令が書かれています。一緒に旧約聖書申命記 17 章 18-20 節の御言葉を見て見ましょう。“彼がその王国の王座に着くようになったなら、レビ人の祭司たちの前のものから、自分のために、このみおしえを書き写して、自分の手もとに置き、一生の間、これを読まなければならない。それは、彼の神、主を恐れ、このみおしえのすべてのことばとこれらのおきてとを守り行なうことを学ぶためである。それは、王の心が自分の同胞の上に高ぶることがないため、また命令から、右にも左にもそれることがなく、彼とその子孫とがイスラエルのうちで、長くその王国を治めることができるためである。”

王たちが神様と民たちの前で良い王になるために神様は出て行って勇敢に戦いなさいとか神様にたくさんの献金をしろとか、熱心に奉仕しなさいなど色々条件を出したのではなくただ単純な一つだけの命令でした。“神様の御教え、御言葉をいつも自分の近くにおいて日々、それを読み、学んで従うこと”だけでした。

愛する信仰の家族のみなさん！ この世の価値観は目に見えるたくさんの業績を民たちのためにどのくらい残したかによって良い王だったのか悪い王だったのかを判断しようとしています。はたしてそれはただしい判断の基準になるのでしょうか。たとえば、旧約のヤロブアム 2 世という王がいました。彼は実際イスラエルの歴史の中で外交的(がいこうてき)にも、軍事的にも卓越し、たくさんの業績を残した王でした。国を豊かにさせました(第二列王記 14 章)。世間では祝福され、成功したかと思ったかも知れません。しかし聖書は彼を悪い王だったと(第二列王記 14 章 24 節)評価します。ダビデ王以来ヤロブアム 2 世はイスラエル歴史上一番ひろい領土を確保するほど活躍しましたのにもかかわらず、神様の前ではあいにく悪い王たちの中でただ一人にすぎないと評価されたのです。

イスラエル王たちの記録を詳しく書いてある列王記を読んで見ると、悪い王たちの共通の特徴は神様の御言葉をたよらないでいつも目に見えるものたちに気を配ったことがわかります。つまり、馬が大切だ、武器が大切だと言いながら隣の国と取引し、力ある国に影響され、目に見えるものに執着したため、結局ほかの国や人にまた滅ぼされる歴史がしばしば出ています。

イザヤ 31 章 1 節を通して神様の御前で悪かったものたちに対して神様はこのように評価しています。“ああ。助けを求めてエジプトに下る者たち。彼らは馬にたより、多数の戦車と、非常に強い騎兵隊とに頼り頼み、イスラエルの聖なる方に目を向けず、主を求めない。”

私たちは今日神様のこの御言葉を真剣に受け止め自分の生き方に受け入れなければなりません。聖書の御言葉による神様の基準はこの世であなたがどれだけ成功したか、失敗したかで善悪を判別するのではなく、神様の御言葉のみがその基準であることをひたすら強調しておられるのです。今日私たちがどんなにこの世で認められ、出世し、成功したとしても神様の御言葉から離れたら、だれでもあの悪い王たちのような存在、人生になりがちである神様の絶対真理を忘れないでください。

1 節の御言葉によると、幸いな人は悪者のはかりごとにも聞かず、罪人の道に歩まず、あざける者の座に座らないようにする人です。悪者、罪人、あざける者の共通点の一つは基準がないことです。旧約の士師記には基準なしに生きていた人々の姿がよくこう表

わされています。その士師記の最後の箇所である21章25節ではこのように書かれています。“そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。”神様の御言葉という基準がないためただ自分の目に、思いに正しいと見える、思われることを行っていたと書かれています。

＜ 幸いな人の姿は ＞

じゃ、それでは神の御前で幸いな人つまり、義人の人生はどんな姿でしょうか。先と反対に行くことでしょうか。つまり、自分が自分の人生の主人のようではなく、基準なしに生きるのではなく、いつも神様の御言葉の基準、標準をもってその基準通りに生きようとする者です。聖書を英語のほかの意味ではカノン(Cannon)といいます。聖書がカノンカメラという意味ではなく、もともとカノンの意味はものさしを意味します。つまりこれが基準、標準、核心だという意味です。神様の御言葉こそ、わたしたちの人生を生きる中での幸いに生きるための標準であり、祝福される道案内になり、時代が変わり、人が変わり、環境が変わって、この世の全てが変わっても、主の御言葉は2000年経っても代わらなかつたし、これからも世々に至るまで変わらない神様からの唯一核心的な基準になるため聖書を‘カノン’と呼ばれるのです。

今日詩篇記者は詩篇一篇の1節から私たちに明確に提示します。神様の御言葉を慕い求めながら生きる中で、神様の御言葉から離れて生きるものは悪者になり、罪人になり、あざける者になってしまう事実をはっきりと伝えています。ある面私たちはこの御言葉を恐れ多い心をもって受け取るべきだと思います。

幸いな人、その人生はいつも神様の御言葉の御教えをよろこびとし、昼も夜もその教えを口ずさむと2節に書かれています。

神様の前で幸いな人、その人生は律法、つまり、神様の御言葉が自分の生活を制限し、自由が束縛されるのだと考えません。むしろ祝福だと考えます。まるで汽車がレールの上を走る時、一番安全で、自由に本来の目的地に一番早く着くことができると思われるのが当然であるように、幸いな人はむしろ神様の御言葉こそが自分の人生のレールのようなと考えます。それでいつも御言葉のレールを走り、その御言葉のレールに従って走ることこそ、自分の人生のまことの目的を一番早く、正しく達成できると信じ、神の御言葉通りに生活することこそ、さらに祝福される雄一な道と信じます。神様の前で幸いな人は神の御言葉のレールから離れ脱線(だっせん)するときこそ、不安で危機で、さまよう時である事実をよく知っている人です。そのためその人はいつも神様の御言葉を黙想します。日本語の聖書ではこの黙想(meditation)の意味を‘口ずさむ’という単語を使って黙想とは何かを説明してくれます。ヘブル語では‘ハガ(hagah)’といいます。これは‘意味を吟味しながらしずかに、やさしく口を出して読む’意味を持っています。

みなさん！サタンは神様を信じている人たちをつまづかせるために神様の御言葉を黙想するより思い煩いを黙想するようにさせます。人の言葉をずっと黙想するようにさせます。心配事と思い煩いばかり考え、そればかり考える人がある面、慎重(しんちょう)だと言われるかもしれませんが、むしろ病気になるがちです。聖書は我々にそのように教えていません。思い煩いは繰り返して黙想しないで神様にゆだねなさいと言っています。

ピリピ人への手紙4章6-7節を探して読みましょうか。“何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってくれます。”人をも続けて考え黙想すると不思議なことにその人をもっと愛するよりもっと憎むようになります。聖書は人を黙想しないで神様の御言葉を黙想することを教えています。

愛するみなさん！神様が私たちにこの尊い聖書を与えてくださったのはいつも私たちの近くにおいて黙想することにより、神を信じるすべての者が祝福され、幸いな人生を歩ませるためであることを今年の最後の礼拝にもう一度心に刻みませんか。

御言葉に対するダビデはこのように告白しています。みなさん、詩篇119編97-104節までみんなで一緒に読んでみませんか。“どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょう。これが一日中、私の思いとなっています。あなたの仰せは、私を私の敵よりも賢くします。それはとこしえに、私のものだからです。私は私のすべての師よりも悟りがあります。それはあなたのさとしが私の思いだからです。私は老人よりもわかまえがあります。それは、私があなたの戒めを守っているからです。

私はあらゆる悪の道から私の足を引き止めました。あなたのことばを守るためです。私はあなたの定めから離れませんでした。それは、あなたが私を教えられたからです。あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘い

のです。私には、あなたの戒めがあるので、わきまえがあります。それゆえ、私は偽りの道をことごとく憎みます。あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。”

< 神の御言葉を喜びとし、黙想する者への祝福 >

すると神様の御言葉を喜びとし、いつも黙想するものに与えられる祝福は何でしょうか。

3 節を見ると、“その人は、水路のそばに植わった木のように。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。”どんな意味ですか。その人生がまるで常緑樹(じょうりよくじゅ)のように飢饉があっても枯れないでいつも栄えて実をむすび豊かな人生を生きると約束されています。どうしてそれが可能ですか。水路のそばに植わった木のようにだからです。この祝福は人の力では手に入れない奇跡的な祝福であり、一番必要な祝福でもあります。

なぜなら、パレスティンではしばらくよく成長しても雨の降らない乾期(かんき)になると枯れてしまう木が普通にたくさんありました。しかし、唯一いつも実り豊かに潤っているいる木は水路のそばに植わった木だけだったのです。

神様の御言葉とおりに生きる人生こそ、人生の祝福であると信じて生きる人々はこの世から与えられるのではなく、神様からの供給される力があるので枯れないし、たおれません。御言葉の根が深く張られているため風がきても、飢饉があってもいつも実りある人生として行きます。

しかし悪者の結末はどうですか。見た目はとても丈夫に見えます。しかし、実際の内容は 4-5 節のように飢饉がくると枯れるし、根が短いため、すぐ強い風が吹き飛ばすと、もみがらのようにあちこち飛んでいくしかできません。これは神様に見捨てられたことを意味し、やがて神様の御前に立たされたときのさばきを意味します。

< 今自分は神の御前で幸いな人であるのか。>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!神様の御言葉をいつも黙想しようとするといつも近くにおいて読まなければなりません。神様の御言葉が一日中つねに自分たちの思い、考え、心、言葉、行いとなるためにはたくさん読み、そして御言葉をたくさん聞かなければなりません。使徒の働き 10 章 44 節です。“ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がおくだりになった。”神様の御言葉を聞くとき、私たちには変化が起こります。ですからみなさん自分自身が祝福されるために毎週日曜日の礼拝もきちんとささげられますように努力してください。神様の御言葉を聞くとき我々の人生の諸問題の解決も与えられると信じます。詩篇 107 編 19 節から 20 節の御言葉です。“この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救われた。主はみことばを送って彼らをいやし、その滅びの穴から彼らを助け出された。”アーメン!

メッセージを終わらせます。

みなさんは今日の御言葉をとおして神様の御前で幸いなものはどんな者なのか十分に知り、確かめる事ができたと信じます。幸いな人、その祝福された人生になる鍵は特別なことではなく、遠くあるのではなく、我々に与えられている神様の御言葉にありました。2014 年が閉じろうとしています。新しい 2015 年にはさらに祝福される人生、者になるために神の御言葉に対する今年の我々の姿勢を主の御前でさぐり、改めて主の御言葉を大事にし、愛し、手に握っていくべきではないでしょうか。水路のそばに植わった木のように新年にはつねに多くの実を結ぶ祝福のその主人公となりますに主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!“この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません(ルカ 21:33)。”

< 詩篇 19 篇 7-11 篇 >

【7 主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、主のあかしは確かで、わきまえのない者を賢くする。

8 主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。

9 主への恐れはきよく、とこしえまでも変わらない。主のさばきはまことであり、ことごとく正しい。

10 それらは、金よりも、多くの純金よりも好ましい。蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い。

11 また、それによって、あなたのしもべは戒めを受ける。それを守れば、報いは大きい。】アーメン!